

海難救助活動レポート

満潮時の潮流や磯波が生じる中、転落者を救助

NPO長崎県水難救済会 館浦救難所



平成23年2月1日7時13分頃、平戸市生月町長瀬鼻北側の磯で釣りをしていた男性が大波に飲み込まれ、海中に転落。平戸海上保安署から救助要請が入り、館浦救難所の救難所員4名が救助船松徳丸と廣漁丸で出動した。

当時の海域では北西の風の影響で2mの波が立っていたうえ、大潮の満潮時間と重なって潮流が速く、磯の複雑な地形により発生する予測不可能な潮流や磯波が救助活動を阻む状況であった。そんな中で、午前8時頃、現場に到着した救助船の松徳丸は岸から50m離れた地点で転落者を発見。無事に引き上げ、船内に収容した。

NPO長崎県水難救済会 館浦救難所
古川 剛さん 吉山 弘一さん
小野 数廣さん 柳原 一満さん

岩礁に囲まれた海域で、波と闘いながら救助活動

和歌山県水難救済会 紀南東部救難所串本支所

平成23年2月22日6時40分頃、和歌山県東牟婁郡串本町の安指漁港沖合にあるスズシマへ乗客を渡そうとした遊漁船A丸が、船尾からの波を受けて転覆。乗員2名と乗客5名が海に投げ出された。同船の乗員から串本海上保安署に118番通報があり、同署から救助要請を受けた救難所員13名が出動。浅瀬が多数存在し10mを超える強風が吹く現場で連携して救助活動を展開し、同じく付近を捜索していた汽船Bとも協力しながら3名を救助。残り4名は自力で海岸にたどり着き、上陸した。しかし、うち1名が外傷性ショックにより死亡した。



和歌山県水難救済会 紀南東部救難所串本支所
寺本 正勝さん 山本 義裕さん 初田 宏さん
坂本 博さん 山崎 芳昭さん 平瀬 庄司さん
赤坂 寿穂さん 藤田 政次さん 初田 豊樹さん
三尾 政信さん 伏見 幸雄さん 瀬尾 一元さん
落合 樹さん

【東日本大震災関連】

避難中に故障した船を救助し、安全な場所へ曳航

(社)北海道漁船海難防止・水難救済センター 静内救難所

平成23年3月11日15時頃、漁船C丸の船長は大地震による津波から漁船を避難させるため出港したが、エンジンの故障により漁船が稼働できなくなった。同30分頃、C丸の船長は無線連絡にて静内救難所に救助を要請。同45分、救助船・第6進栄丸と第十八祐宝丸は現場に到着し、C丸を安全な場所まで曳航した。しかし津波警報発令中であったため、アンカーを落としてC丸をその場に待機させ、C丸の船長は第6進栄丸にて帰港した。翌12日6時40分頃、津波警報の解除を受けて救助船・第三福十丸が出港し、C丸を曳航して8時15分頃東静内港に帰港した。

(社)北海道漁船海難防止・水難救済センター 静内救難所
米田 仁さん 米田 進さん 築田 武治さん 築田 裕治さん 外館 初義さん
外館 勝光さん 外館 守さん 岡崎 慎一さん

津波を受け、転覆した船を引き上げる

千葉県水難救済会 鴨川救難所

平成23年3月11日21時30分頃、小寄港に係留されていた漁船D丸が津波を受け、転覆。翌12日6時頃、連絡を受けた鴨川救難所の救助船3隻が出動し、9時頃、D丸を曳場に引き上げて救助した。

千葉県水難救済会 鴨川救難所
副所長 松本 喜代隆さん 副所長 岡崎 良次さん
庄司 喜吉さん 坂本 年壺さん 亘 政明さん 浜崎 千尋さん 野次 洋一さん
徳永 卓さん 斉藤 英司さん 山崎 智文さん 渡辺 明人さん 徳山 英樹さん

出港時に船体破損した船を一時避難のうえ、救助

(社)北海道漁船海難防止・水難救済センター 静内救難所

平成23年3月12日7時20分頃、東日本大震災の避難のため出港した漁船E丸は、出港時に船体を破損。危険を感じた船長が同30分頃無線連絡で静内救難所に救助を求めた。出動した救助船・第十八寿丸と第三昭栄丸は同50分頃現場に到着し、E丸を安全な場所まで曳航した。しかし津波警報発令中であったため、避難地点にアンカーを落としてE丸を待機させ、船長を第十八寿丸に収容して帰港。翌13日6時40分頃、津波警報解除を受けて救助船・第八十八みな丸を出動させ、避難地点よりE丸を曳航。しかし支柱が折れたため、E丸の稼働状況を確認し伴走警戒しつつ、E丸の自力・低速航行で三石港に入港した。

(社)北海道漁船海難防止・水難救済センター 静内救難所
坂尻 孝さん 坂尻 孝幸さん 赤石 昭司さん 赤石 匡生さん 酒折 一さん 酒折 和彦さん
酒折 忠司さん 酒折 定二さん 芳賀 敏昭さん 吉田 隆秀さん 井田 和郎さん

発見された転覆船が、震災の被害船であると判明

宮崎県水難救済会 宮崎県中部救難所

平成23年3月16日17時50分頃、宮崎海上保安部より「宮崎県宮崎市大淀川河口の導流堤に転覆している小型船があるとの通報あり。事故の可能性があるので、救助を要請する」との連絡を受け、救助船・福元丸に救難所員1名が乗り込み出動するとともに、救難所員1名は陸上からの捜索を開始。18時40分頃、宮崎海上保安部にて転覆船F丸の所有者と連絡がつき、転覆船は3月11日の東日本大震災に伴う津波のため、転覆・流出したものであることが判明。海難事故案件ではないことが判明、救難所としての対応は打ち切られた。

宮崎県水難救済会 宮崎県中部救難所
福元 勝美さん 福元 孝典さん

千葉県水難救済会 新勝浦市救済所

平成23年1月28日5時50分頃、救助船・吉野丸にて航行中に叫び声を聞いた救難所員は、海上で転覆している漁船G丸とその船長を発見。付近にいた救助船に乗っていた救難所員が携帯電話で別の救難所員に連絡を取り、その後即座に救助に向かった。

連絡を受けた救難所員が救難所長と各救難所に出動を要請、出動した救難所員20名は6時頃現場に到着して転落した船長の生存を確認し、先に救助活動を開始していた救助船の救難所員3名とともに救助を行った。7時10分、救助船2隻に曳航されて帰港したG丸を陸揚げし、救助活動を終了した。

福井県水難救済会 越前町水難救難所

平成23年3月9日9時35分頃、越前町漁連より「越前漁港沖を航行中の漁船I丸が強風のため転覆し、乗員3名が海に投げ出された。至急救助に向かってほしい」との連絡が入った。このため、越前町水難救難所所属の救助船・梅宝丸と金剛丸が出動。現場付近航行中であつた協力船も含めた3隻が9時50分頃事故現場に到着、防波堤上にいたI丸乗員2名およびテトラポットにつかまっていた1名を救助し、越前町漁連岸壁まで搬送した。

救助された3名は10時18分頃救急車に引き継がれ、病院に搬送された。

山口県水難救済会 奈古救難所

平成23年2月4日8時頃、救難所員（山口県漁協奈古支店組合員）が奈古地先モド口で潜海漁業を開始しようとしたところ、海面に油が浮いていることを確認。船舶事故を予測し周囲を目視した結果、沈没した船舶と岩場で手を振って救助を求める遭難者を見つけた。自船・元丸では救助が困難だったため、発見者の救難所員は救助船・第一漁協丸に協力を依頼し、岩場の遭難者を救助。救助後、遭難者を救助船・元丸で奈古港に搬送した。

(社)福岡県水難救済会 野北救難所

平成23年3月23日22時頃、野北港に夜釣りに来ていた親子のうち、子どもが波戸から海中に転落。父親はクーラーボックスを海中に投下するとともに大声をあげ、助けを求めた。たまたまバーベキューのため陸岸にいた救難所員が救難所副部長に連絡、救助船・漁栄丸と芳丸に乗船し救難所員5名が救助に向かった。

22時20分頃現場に到着した救難所員2名が転落者を船内に収容、22時30分頃救助船は帰港した。転落者はカキにより負傷していた。

千葉県水難救済会 新勝浦市救済所

平成23年3月6日6時30分頃、スズキ釣漁に出漁した漁船H丸の船長より、船が転覆したとの連絡が救難所員に入り、連絡を受けた救難所員が即座に救難支所長に通報、支所長より連絡を受けた救難所長が各救難支所長に出動を要請した。同時に、当初連絡を受けた救難支所長が地元の救難所員に救助を要請し、石橋丸・文栄丸・岡本丸ほか1隻の救助船が出動。海上に漂流しているH丸を発見した。当初連絡を受けた救難支所長がH丸船長の無事を確認するとともに、出動した救難所員全員でH丸の上架作業を終え、8時30分に救助活動を終了した。

(社)北海道漁船海難防止・水難救済センター 松前救難所

平成23年4月21日6時頃、漁船J丸は船体の修理のため原口漁港から松前港に向けて出港。しかし、6時30分頃、救難所員2名は陸上から、J丸が右回りに円を描くように不審な動きで航行している様子を確認。7時10分頃、2名が再度確認したところ同様の状況であったため、救難所江良支所長に連絡。救助船・貴生丸でJ丸の異変に気付いた救難所員2名が江良漁港を出港し、J丸に接近、1名がJ丸に飛び移った。船内を確認したところ、J丸の乗員1名が倒れていたため、J丸のエンジンを停止。乗員を貴生丸に移し、江良漁港に搬送した。また、J丸は救難所員が操船し、江良漁港に運んだ。J丸乗員は8時15分頃救急車で病院に搬送された。